

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：57301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720118

研究課題名(和文) 明治期 文芸メディア 研究着手へ向けた 土族反乱錦絵 データベースの構築

研究課題名(英文) Construction of the database Nishikie illustrating rebellions caused by groups of samurai : for study of the Art and Letters media in the early Meiji period

研究代表者

生住 昌大 (IKIZUMI, Masahiro)

佐世保工業高等専門学校・一般科目・講師

研究者番号：40612453

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：土族反乱を描いた錦絵の所蔵調査を行った。調査を行ったのは、鹿児島県立図書館、鹿児島市立美術館、熊本市立熊本博物館、久留米大学、鹿児島大学の5機関である。これと同時に錦絵の蒐集も行った。これらの結果として、計657点の錦絵をリスト化し、研究成果を発表するホームページも開設した。

また、西南戦争錦絵を紹介する図録『西南戦争 報道と、その広がり』を刊行し、論文「西南戦争と錦絵 報道言説の展開と明治一〇年代の出版界」を発表した。

研究成果の概要(英文)：We investigated Nishikie illustrating rebellions caused by groups of samurai. The museums surveyed were as follows : Kagoshima Prefectural Library, Kagoshima City Museum of Art, Kumamoto City Museum, Kurume University, and Kagoshima University. In parallel with these investigations, we collected various related Nishikie. As a result, we made a list of those 657 Nishikie and prepared a home page to present our efforts.

Moreover, we published a pictorial record "Seinan War : A Report And Its Effect", which introduced Seinan War Nishikie, and presented a paper "The Seinan War and Brocade Prints : The Development of Media Narrative and Publishing in the Meiji 10s."

研究分野：日本近代文学

キーワード：錦絵 新聞 メディア 文学 歴史 土族反乱 明治 浮世絵

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 先行研究とその問題点

本研究を、「明治期 文芸メディア 研究 着手へ向けた 土族反乱錦絵 データベースの構築」と題した。土族反乱錦絵とは、明治10年に起こった西南戦争などの「土族反乱」を題材として、リアルタイムで描かれた錦絵を指す仮称である。関連する主要な先行研究は、以下のとおりである。

- 【A】渡辺光一「熊本市立博物館所蔵 西南戦争錦絵について」(「熊本史学」49号、1977年)
- 【B】野村守治「西南戦争錦絵目録」(「敬天愛人」2号、1984年)
- 【C】富田紘一「熊本博物館蔵西南戦争錦絵について」(「熊本博物館館報」No.7、1995年)
- 【D】小西四郎編『錦絵幕末明治の歴史』全12巻(講談社、1977年)
- 【E】塩谷七重郎『錦絵で見る西南戦争』(歴史春秋出版、1991年)

上記【A】～【C】は、研究雑誌や館報に発表された土族反乱錦絵の目録であり、【D】および【E】は、一般向けに刊行された図録である。前者の目録は、土族反乱錦絵の全体像の概観を可能にし、後者の図録はその存在を広く一般に伝えてきた。これら先行研究が明治期錦絵文化の周知に果たした役割は極めて大きい。本格的な先行研究は驚くほど少ない。

また、これら先行研究の限界は、「土族反乱」がリアルタイムで錦絵化されたという事実を伝えるに留まっている点、また、書誌学・文献学的方法に基づく正確な資料情報に乏しい点にあると考える。わずかに【C】富田紘一「熊本博物館蔵西南戦争錦絵について」が本格的な研究にも耐えうる目録と言えるが、ただしそれは熊本博物館に所蔵される錦絵に限定された目録である。

さらに、最後に目録が作成されたのは、20年以上も前のことであり、その間に申請者自身も新資料を発見している。新資料を含めた、書誌学・文献学的方法に基づく目録の完成と、いつでも誰でも閲覧可能なデータベースの構築が必要なのではないかと考えるようになった。

### (2) 先行研究の問題点の解決策

土族反乱錦絵を、江戸時代から続く錦絵文化の延長線上に捉える仕事は、上記【A】～【E】の仕事で半ば達成されている。ならば次は、土族反乱錦絵が刊行された同時代的状況を踏まえながら、共時的な視点から土族反乱錦絵を把握し直すべきである。

これらの錦絵は、通時的視点から見れば、江戸時代の錦絵と同様、鑑賞用に出版・享受されていたように思われるが、実際はそうで

はなかった。共時的視点から見れば、当時の新聞の不足を補う補完的なメディアとして出版されていた事実こそ、研究の光は照射されなくてはならない。写真はるか挿絵さえほとんど載せていなかった当時の新聞の視覚情報を補うために、これら錦絵は刊行されていたのであった。この観点から、土族反乱錦絵をより深く究明していかなければならないと考えた。

## 2. 研究の目的

明治初頭に描かれた錦絵の中でも、特に土族反乱錦絵は、およそ1年間に600種以上も刊行されているにもかかわらず、事件に便乗して摺られた錦絵であったため、これまでどの研究領域においても本格的な議論の俎上に乗せられることはなかった。

例えば、美学の領域では、その際物的な性質ゆえに、美術的な価値はほとんどないものとして看過されてきた。また、「土族反乱」は近代日本の一大事件であるはずだが、それらは現地には赴かずに描いたまったくの想像図であり、荒唐無稽な絵も実に多いため、歴史学の領域でも史料としては見なされず、見向きもされなかった。

### (1) 文学研究としての土族反乱錦絵研究

しかしながら、際物的な錦絵であっても、庶民の心を捉えたこれらの錦絵は、娯楽性という観点において文学研究の問題たりうるのではないかと考えた。また、荒唐無稽な想像図であっても、旧来の戦記や歌舞伎の一場面を思わせる絵柄も多く、こうした虚構性の問題も、文学研究者が積極的に引き受けるべきものだと確信するに至った。

これら土族反乱錦絵は、筆者がこれまで取り組んできた土族反乱実録とも密接に関わるもので、未だ不明瞭な明治10年前後の文学的空間を把握するためにも不可欠な研究資料である。これらを把握することで、既存の文学史の空白域を埋めることが可能となる。

### (2) 共同研究へ

また、この土族反乱錦絵研究は、文学、歴史学、美学、社会学など、隣接する領域の研究者たちとの領域横断的な「土族反乱」研究をスタートさせることを目的としている。

例えば、文学研究の領域は、先述した土族反乱錦絵が持つ娯楽性と虚構性の問題を引き受けることが可能であろう。また、歴史学では史実との距離を、美学では再び脚光を得た幕末の浮世絵師たちの動向とその後の活躍の広がり、社会学ではメディアとしての錦絵研究をそれぞれ得意とするところであり、あるいはそうした線引きなど必要としない越境的な議論も可能となるであろう。

## 3. 研究の方法

土族反乱錦絵という観点から、既存の

文学史の空白域を埋めるため、またそれを共同研究にまで発展させるために、まずは「土族反乱錦絵」それ自体を把握しておく必要がある。600種以上に及び「土族反乱錦絵」を、本格的な研究に耐えうる資料情報と共に、PCモニター上でいつでも閲覧できるようにし、所蔵機関も明らかにしておけば、複数領域からの多角的なアプローチがより容易に可能となる。

#### (2) 所蔵調査

3年という研究期間で全国の諸機関を巡るのは難しい。ゆえに本研究では、多くの「土族反乱」の舞台となった九州地区に点在する図書館、美術館、博物館、大学図書館を対象に、「土族反乱錦絵」の所蔵調査を行うこととした。九州地方のこれらの機関は、地域の歴史を伝える重要な史料として、早くから「土族反乱錦絵」の収集と保存に努めてきた。だが、それらは目録化して一般に公開されているものは少なく、その全体像を知ることができない。まずは、九州地方の諸機関を巡って、所蔵の実態を明らかにする。

#### (3) 目録作成

上記の所蔵調査を基に目録を作成する。「土族反乱錦絵」に特化して目録を作っている所蔵機関は少ない。また、目録があったにせよ、それらは簡易目録というべきもので、本格的な研究に耐えうるものではない。【C】富田紘一「熊本博物館蔵西南戦争錦絵について」レベルでの、書誌学・文献学を踏まえた目録作成を行う。

#### (4) データベースの作成

「土族反乱錦絵」を所蔵する機関は多いが、それらは概ね貴重史料扱いで、特別な手続きを経なければ閲覧できない状態になっている。調査の際には史料の撮影許可をいただき、PCのモニター上で詳細な資料情報と併せた画像が閲覧できるようにする。

### 4. 研究成果

#### (1) 関連錦絵の所蔵調査

以下の諸機関において、関連錦絵の所蔵調査を実施した。括弧内には、調査協力者を記す。

- 2012年度実施
  - ・鹿児島県立図書館
- (協力：久留米大学准教授大庭卓也氏)
- 2013年度実施
  - ・鹿児島市立美術館
- (協力：久留米大学准教授大庭卓也氏)
- 2014年度実施
  - ・熊本市立熊本博物館
- (協力：立教大学大学院生高橋未来氏)
- ・久留米大学
- (協力：久留米大学准教授大庭卓也氏)
- ・鹿児島大学

(協力：鹿児島大学准教授亀井森氏)

#### (2) 目録の作成

上記の所蔵調査の結果に、申請者が蒐集した錦絵を併せ、合計657点(2015年3月31日現在)の関連錦絵を目録化することができた。

については、研究雑誌への投稿を検討したが、浮世絵研究の専門家からは、「画像付きの目録でなければ、実際には使えない」というご助言をいただき、投稿を見合わせた。600点を超える錦絵の目録を画像付きで掲載できるような研究雑誌が見当たらなかったからである。

打開策としては、筆者も名前を連ねる同人誌「文芸批評 叙説」での目録連載があり、本研究に大きな理解を示してくださっている久留米大学からは紀要での目録連載のご提案もいただいている。一度にまとめたかたちでの発表は難しいが、分載であれば可能かと思われる。引き続き、目録発表の手段を模索していく。

#### (3) ホームページ「西南戦争錦絵」の開設

目録の発表はできなかったが、研究成果を発信するホームページ「西南戦争錦絵」を開設(<http://www.sasebo.ac.jp/~ikizumi/>)。自身で蒐集した錦絵を中心に、錦絵画像と詳細な史料情報を併せて公開している。許可が下り次第、調査を実施した諸機関が所蔵する錦絵の公開も行っていく予定である。

#### (4) 論文の発表

##### 概要

西南戦争に取材した錦絵(所謂「西南戦争錦絵」)の商品性、その素材源となった新聞報道との具体的な関連、そして明治10年代の出版界への余波を実証的に明らかにする論考「西南戦争と錦絵 報道言説の展開と明治一〇年代の出版界」を執筆した。

本稿では、従来は想像で語るしかなかった、西南戦争錦絵と新聞報道と文学作品との関わりを実証的に示し、西南戦争時の報道言説が錦絵化されて広がっていくありようを考察した。そして、そこからさらに、未だ不明瞭な明治10年代の出版界の動向の粗描を試みた。明治10年代には所謂「異種百人一首」の盛り上がりがあったが、「賊徒」を忠孝義貞の徳目を備えた人物たちとして描いた西南戦争錦絵がその素材源の一つとなっただろうことを指摘した。また、この「異種百人一首」の流行は、明治10年代の出版界が忠孝義貞の徳目というものを新たに獲得したことを示したが、これは錦絵の出版にも共通するものでもあり( )、この当時の出版界全体の問題として看過できない事実である。西南戦争という視座は、文学や浮世絵研究など、広く明治10年代の出版界を考察していく際に欠かせぬ資料であることを述べた。

明治 10 年代の出版界への出版界を再考する上で西南戦争錦絵という新しい視点を提示したという点が評価され、本論は日本近現代文学で最も権威ある学会誌「日本近代文学」第 90 号（2014 年 5 月）に掲載された。

#### <参考文献>

菅原真弓、ブリュッケ、浮世絵版画の十九世紀 風景の時間、歴史の空間、2009 年

#### 執筆後

本論が近世実録研究者の目にとまり、西南戦争錦絵は明治十年に多数刊行された明治期実録作品とも関わりが深いということから、2015 年 7 月刊行予定の雑誌「文学」（岩波書店）の「実録」特集への執筆依頼を受けた。

#### (5) 社会への研究成果還元

##### 概要

久留米大学御井図書館の貴重資料企画展「西南戦争 報道と、その広がり」（2014 年 4 月～8 月開催）の開催に際して、同大学大庭卓也氏と共同編集で、同名図録（久留米大学文学部、2014 年 3 月）を刊行した。

本図録の目次は、「戦争の始まり」、「混乱過熱する報道」、「大阪における報道」、「さまざまな報道」、「暮らしへの浸透」という 6 項目を立てて、西南戦争錦絵の刊行とその広がりを追った。

「戦争の始まり」では、最初期の錦絵 2 図を紹介。「混乱過熱する報道」では、一騎打ち、女隊など、史実とは言えない荒唐無稽とも思われる構図を持った錦絵 4 図を掲載した。また、「大阪における報道」では、大阪が得意とした大判一枚の錦絵新聞形式の錦絵 4 図と、人物画 5 図を。「さまざまな報道」では、6 枚続きの大変珍しい錦絵や、西郷隆盛が火星の中に見えるという伝説「西郷星」を描いたもの、そして「西郷隆盛暗殺未遂事件」を錦絵化したものなど、計 6 図を。「戦争の終結」では、西南戦争の終結をいち早く伝えようとした錦絵 3 点。「暮らしへの浸透」では、ダイジェスト版錦絵や、西南戦争双六錦絵、歌舞伎絵、風刺絵など計 11 点。これら全てをカラー図版で掲載している。なお、白黒だが、その他 27 図の錦絵や実録的読み物も併せて紹介している。

従来は、西南戦争錦絵としてはオーソドックスな大判 3 枚続の錦絵を中心として紹介されることが一般的であったが、西南戦争錦絵の多様性を示すため、大判一枚の錦絵新聞タイプのものや、人物画、ダイジェスト版錦絵なども積極的に取り入れた図録とした。また、錦絵ではないが、銅版の扇面図も紹介でき、西南戦争は庶民の暮らしの深い中にまで浸透していたことが、本図録を見れば一目瞭然である。従来の図録とは違う新味を出せたと思っている。

なお、本図録は非売品だが、久留米大学御

井図書館ホームページ内で、PDF 版を閲覧することができる。

#### 企画展および図録の反響

本企画展は、以下のとおり、地域に広く宣伝された。

- ・2014 年 5 月 12 日付「朝日新聞（筑後版）」
- ・5 月 22 日付「読売新聞（筑後版）」
- ・5 月 24 日付「朝日新聞（鹿児島版）」
- ・5 月 27 日付「西日本新聞（朝刊）」
- ・6 月 10 日付「西日本新聞（夕刊）」

その他ローカル・ニュース番組内でも紹介され、企画展自体も期間を延長するなど、大変な好評を得た。

さらに、本図録が雑誌編集者の目にとまり、西南戦争錦絵に関するインタビューを受けた。これは、「西南戦争の「大活劇報道」から新聞の戦意高揚報道は始まった」（「SAPIO」27(4)、SAPIO 編集部）の一部となった。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

生住昌大、西南戦争と錦絵 報道言説の展開と明治一〇年代の出版界、「日本近代文学」、査読有、第 90 集、2014 年、1-16 頁。

〔図書〕（計 1 件）

大庭卓也・生住昌大、久留米大学文学部、西南戦争 報道と、その広がり、2014 年、1-81 頁。

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.sasebo.ac.jp/~ikizumi/>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

生住 昌大（IKIZUMI, Masahiro）

佐世保工業高等専門学校・一般科目・講師  
研究者番号：40612453

##### (2) 研究分担者

なし